

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	成果と今後の課題	中間評価
1 個別の指導計画の充実と授業研究等とおしての授業力の向上	① 新たな個別の指導計画の様式を基に児童生徒一人一人の実態ならびに本人・保護者の教育的ニーズを把握し、実践を通して個別の指導計画の充実を図る。	教務課	個別の指導計画に基づき、個々の児童生徒の教育的ニーズに応じた授業を A：十分実践している B：おおむね実践している C：あまり実践できていない D：ほとんど実践できていない	アンケート調査の結果は以下のとおり A： 2（12.5%） B： 13（81.2%） C： 1（6.3%） D： 0（0%）	年度当初から個別の指導計画の作成にあたって児童生徒の実態把握のための児童生徒理解の会を行った。また、保護者懇談で保護者の要望確認を行ったり、自立活動の個別の指導計画を部会で共通理解しながら取組を進めてきた。教職員へのアンケート調査の結果では「B：おおむね実践している」が8割ほどであったが、あくまで自己評価であるため、今後さらに個別の指導計画の中身が授業実践で反映されるような方策を考えて取り組んでいきたい。	B
	② 全教員が一人1研究授業の実践を目指し、授業研究をとおして個々の教職員の授業力の向上と専門性の向上を図る。	研究推進委員会	研究授業を行った教員は A：全員 B：8割以上全員未満 C：6割以上8割未満 D：6割未満	研究授業を行った教員は 5名（33.3%）	教科指導等研究会と10年経験者研究授業などをおして研究授業を行ったが、15回も研究授業をしなければならない10年経験者研修の対象者が2名いることもあり、現段階では全教員の1/3しか研究授業を実施していない。全教員が研究授業を実施するよう、今後計画的に取り組んでいきたい。	D
	③ 授業参観日等に保護者にアンケート調査を実施し、調査結果を日々の授業等に生かす。	教務課	授業や教員の専門性に関して、保護者は A：十分満足 B：おおむね満足 C：あまり満足していない D：ほとんど満足していない	アンケート調査の結果は以下のとおり A：37（69.8%） B：16（30.2%） C：0（0%） D：0（0%） ※数値は3つの調査の延べ人数と割合	9月の授業参観時に保護者にアンケート調査を実施したところ、A：76.9%、B：23.1%であった。また、10月にアンケート調査を実施したところ、授業に関してはA：75%、B25%で、教師の専門性に関してはA：60%、B：40%であった。授業に十分満足している保護者の割合に比べて、教師の専門性に十分満足している保護者の割合が低いので、今後も個々の教師の専門性を高めるような取り組みを考えていきたい。	B
2 地域の資源を活用した計画的な教育活動の推進と地域との交流	① 地域の高齢者団体「ほのぼの会」と定期的に軽体操を一緒にに行い、交流する。	小学部	軽体操を一緒に行うことで、児童や「ほのぼの会」の方々は A：十分満足 B：おおむね満足 C：あまり満足していない D：ほとんど満足していない	未実施	「すず分校祭」に合わせて、10月中に2回の交流を予定していたが、「ほのぼの会」の都合で1回と分校側の都合で1回の2回とも計画が流れたため、11月以降に軽体操や遊びを取り入れた交流を行いたい。	未実施のため 評価なし
	② 高等部作業学習や総合的な学習の時間などで、地域をフィールドとした学習を展開し、地域の中で本校に対する理解者を増やせるような指導計画や指導形態、支援方法を探求する。	中・高等部	地域における学習活動に関して、地域の方々は A：十分満足 B：おおむね満足 C：あまり満足できなかった D：ほとんど満足できなかった	未実施	中・高等部の生徒が柿収穫作業を11月5日（木）に実施する予定である。また、収穫した柿をアルコール処理し、交流校や県内の養護学校、珠洲消防署などに寄贈する予定である。3学期には、珠洲市の高齢者施設や保育所等で絵本の読み聞かせやよさこいソーランの披露などをする予定である。	未実施のため 評価なし

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	成果と今後の課題	中間評価									
3. 早期教育相談及び専門相談の充実と関係機関との連携の強化	① 早期教育相談の対象者に、アセスメントの結果を活かした個別の教育支援計画を作成する。	教育相談課	相談室での相談内容に A：全員が満足 B：8割以上全員未満が満足 C：6割以上8割未満が満足 D：6割未満が満足	アンケート調査の結果は以下のとおり 十分満足：5 (100%) 概ね満足：0 (0%) やや不満：0 (0%) 不満足：0 (0%)	9月までに9名を対象に25回の来校相談を行った。保護者の悩みや願いを聞き取りながら、アセスメントや、保育所や医療、療育機関等との連携支援会議を行ってきた。11月までに、これからの課題や必要な支援についての情報を整理しながら個別の教育支援計画を作成する予定である。 また、後期は就学や保育所への入所に伴う連携支援会議も行う予定である。	A									
	② 専門相談活動や連携支援会議をとおして、支援関係者が情報を共有するための基盤づくりを行う。	教育相談課	専門相談員の相談内容や連携支援会議の内容に A：全員が満足 B：8割以上全員未満が満足 C：6割以上8割未満が満足 D：6割未満が満足	アンケート調査の結果は以下のとおり 十分満足：11 (91.7%) 概ね満足：1 (8.3%) やや不満：0 (0%) 不満足：0 (0%)	9月までに18校（保育所、小学校、中学校、高等学校）への専門相談（21回）と巡回相談（7回）、高等学校サポート（2回）を行った。主な内容は、特別支援教育についての研修会講師、校内支援会議での助言、担任などへの助言である。保護者や医療機関等との連携支援会議も2回行った。 後期はこれに加え、就学や進学に伴う連携支援会議を行う予定である。	B									
4. キャリア教育の推進と進路指導の充実	① ハローワークの協力を得ながら、珠洲市・能登町・輪島市の企業を回り、新たな職場開拓を行う。	進路指導課	新たに開拓した実習協力企業は A：3箇所以上 B：2箇所 C：1箇所 D：0	新たに開拓した実習協力企業 珠洲市で2箇所	4月～8月にかけて職場開拓をした結果、珠洲市で珪藻土加工工場1社と縫製工場1社の2箇所に職場実習協力を得ることができた。 能登北部地域では企業の職場開拓が難しいが、福祉施設の開拓の方がより困難である。能登町、輪島市などの福祉施設の職場開拓が今後も重要であるので、引き続き企業や福祉施設を回り、新たな職場開拓を行っていききたい。	B									
	② 学部・学級だよりや連絡帳、保護者懇談等をとおして、保護者の協力を得ながら、家庭でお手伝いをする児童生徒の割合を高める。	生徒指導課 保健課	家庭でお手伝いをする児童生徒の割合が A：7割以上 B：6割以上7割未満 C：5割以上6割未満 D：5割未満	アンケート調査の結果は以下のとおり 毎日お手伝いをしている 44% していない 56% <table border="1"> <tr> <td>小</td> <td>25%</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>50%</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>67%</td> <td>33%</td> </tr> </table>	小	25%	75%	中	50%	50%	高	67%	33%	「夏休みの生活」のお便りで、お手伝いを薦めたり、小学部では「お手伝いカード」をつけるなどして、お手伝いをするように家庭にも働きかけたりした。保護者へのアンケート結果では、毎日お手伝いをしている児童生徒は、全体では44%であるが、年齢が上がるにつれてその割合は高くなり、高等部では3/4の生徒が毎日お手伝いをしている。お手伝いは将来の就労や自立にも結びつくと思われるので、小学部の保護者への働きかけも積極的に行っていききたい。	D
	小	25%	75%												
中	50%	50%													
高	67%	33%													
③ キャリア教育と進路指導に関する理解を深めるため、全校の保護者を対象に進路だよりや担任からの連絡等をとおして、「進路指導研修会」への参加を促す。	進路指導課	「進路指導研修会」に参加する保護者の割合が A：7割以上 B：6割以上7割未満 C：5割以上6割未満 D：5割未満	「進路指導研修会」での保護者の参加率 68.2%	昨年度の進路指導研修会での保護者の参加率は全体で50%しかなかったが、今年度は「進路だより」に案内を詳しく載せたり、各担任が連絡帳などをとおして保護者に参加を呼びかけたことで、参加率が向上した。 しかし、小学部の保護者の参加率が低いので、今後もキャリア教育と進路・就労に関する理解・啓発を図っていききたい。	B										